Nagoya Linguistics(名古屋言語研究)
2014 Vol.8, pp.57-67

「漢語形容詞」の用法について
―連体修飾の「テイル」「タ」「ナ」「ノ」形式を中心に―

CIFTCI UMMUHAN　チフトゥチ　ウッムハン（名古屋大学大学院）

要旨

現代日本語には「結婚している女性」「安定した椅子」などのように複合サ変動詞を形成し、文中で「ヲ」「ニ」「デ」「ガ」「ハ」などの諸格を取らず単独のままで名詞を形容するものが存在している。複合サ変動詞形式以外では、形容動詞の「ナ」と連体の「ノ」も同じく連体修飾に用いられる要素であり、名詞の状態・属性などを表す場合に修飾語と繋がりを供給するものである。

本稿では、このような形容詞性を持つ修飾語となっており、連体修飾の機能を担う「漢語形容詞[1]」に付加する「テイル・タ」形と連体の「ナ・ノ」形の比較を行い、諸形式の中でどちらの形態が優位に用いられており、形容詞的な用法で用いられる傾向がどのように見られるかを考察する。また、形容詞的用法として使用可能な漢語形容詞を分析し、それぞれの使用実態をまとめた図表を作成する。

1. はじめに

これまでの研究では、現代日本語において体言を修飾する場合の「形容詞的動詞」を取り扱い、その中で時制の標識となる役割を担わず形容詞的な特徴を持つ「テイル」「タ」形の用法を中心に検討されてきた。

この「形容詞的動詞」用法に関しては金田一 (1950)をはじめ、寺村(1984)、高橋(1994)および金水(1994)などの多くの論文や文献があり、それらにおいては「テイル」形と比較して「タ」形がより形容詞らしいとする研究が多い。ただし、その多くは和語動詞の用法を対象としており、「漢語形容詞＋名詞」の分析研究はなされていない。

「形容詞的動詞」とは寺村(1984)では「優れている・馬鹿げている」などのような形容詞的にのみ使われるものを表す用語とされているが、本稿では連体修飾に「ヲ・ニ・デ・ガ・ハ」などの諸格を伴わず、基本形容詞と同様に単独のまま主にジンブツの行状・性質・感情やモノゴトの状態・性質などを表し、動きを表さない用法を指す。また、「形容詞的動詞」になるものの特徴は必ず名詞に前接され、動詞語基から構成されることである。形容詞的な性格を持つ「尖る・痩せる・違う」などのような和語動詞の分析は多く行われているが、「固定する・苦労する・共通する」などのような漢語サ変動詞の形容詞らしさに関する研究は少ないため、本稿ではその点について考察を試みる。

以下には文中において単独用法で用いられ、典型的な形容詞の振る舞いをする、「漢語形容詞＋名詞」形式について具体例を示す。

(1) 若いときに粋がって遊び心で入れてしまい、後悔している人が多い。
(2012年06月09日・朝日新聞)

[1] 本稿では典型的な形容詞の働きを担い、漢語形容詞＋名詞形式で連体修飾する性格を持つものを「漢語形容詞」と呼ぶことにする。

(2) オリーブオイルは肺にこもった熱を取り、乾燥した肌を潤す働きがあるという。
(2009年01月24日・朝日新聞)

また、この漢語形容詞＋名詞形式には形容詞的な和語動詞から構成されるものとは異なり、漢語と形容動詞の「ナ」や連体の「ノ」を伴うことで形容詞的に使用することが可能なものも存在する。

(3) 安心している・安心した・安心な・安心の人

但し、全ての漢語形容詞と「ナ」形と「ノ」形が一致するとは言えない。

(4) 僕の周囲には、100人ぐらい社会的に成功している{した・??な・??の}[2]人がいますが、そういう人は本格的な投資なんてやっていません。　(2010年09月17日・朝日新聞)

用例出典としてはコーパスを用いる。現代日本語を取り扱ったコーパスの中から、本稿では朝日新聞オンライン記事データベース(1984～2013)とCD-ROM版新潮文庫の100冊の用例を調査対象として取り上げる。

2.「漢語＋シテイル・シタ」を有する形容詞的な用法

連体修飾には「和語動詞＋テイル・タ＋名詞」と同様に動詞らしさを失い、形容詞的用法とされる「漢語＋シテイル・シタ＋名詞」形式もよく用いられる。それらはテンス表示と無関係に形容詞的な解釈ができる、基本形容詞の役割を果たすものである。また、ジンブツの行状・性質・感情とモノゴトの状態・性質などを表す形式としても位置する。本稿では修飾の対象となる名詞をヒト・モノに限定し、他に主体となる要素・名詞との使用を対象外とする。ただし、表④の用例調査では他の主体を名詞対象としたことがある。

漢語形容詞の形容詞的な用法は文脈に現れる意味的な特徴はもちろん、形態的な特徴にも関わっている。また、連体修飾における形容詞であるそのものは諸格を取るか否かによって決定される。「漢語＋シテイル・シタ＋名詞」は一般的な「漢語＋スル＋名詞」形式と働きが類似しており、名詞を形容する際の構成要素となる複合サ変動詞である。例えば、「故障する」を用例数という観点から見ると、単独用法の場合は名詞と共に用いられる傾向が高いと思われる。以下にそれぞれの例文を挙げる。

(5) 体調を崩している選手も故障している選手もいない。いい状態だ。
(2012年08月13日・朝日新聞)

(6) けがで故障している選手が多く、そのカバーが課題だ。　(2012年06月23日・朝日新聞)

(7) 故障している選手が多かったし、期末試験中と、いろいろな要素が重なっていた。

---

2 ?は使用確率や使用頻度が低いことを示す。??は表現的に許容しにくいことを示す。

（1988年07月31日・朝日新聞）

(5)では、「崩している」及び「故障している」が名詞の前に置かれ、「選手」が今いる状態を表す。しかし、形態的には単独のままの形容詞的用法ではなく、連体修飾節に「ヲ」格で繋がっている状態である。「体調を崩している・故障している選手」の場合はいずれにしても「ヲ」格の必要性が生じるため、「崩している・故障している」は完全に「形容詞的動詞」であるとは言いにくい。(6)も「デ」格と関係があるため、同様のカテゴリーに入る。用例数を基準とした新聞記事検索では、「漢語＋シテイル」形が全体で9件検出され、格を取る(5)(6)以外の用例の全てが名詞の直前に置かれた形容詞的な用法であった。(7)はその用例の一つである。

筆者は以上のような漢語について形容詞的な性格を有することから「漢語形容詞」と呼ぶことにする。全ての漢語＋サ変動詞形式が漢語形容詞になるわけではないため、形容詞的な用法が見られる漢語を以下にグループに分ける。

まず、表①に示したAグループでは「故障する」と同様に属性を持つ格を取らず、単独用法が見られる漢語形容詞の「テイル・タ」形との使用可否について分類している。表①に掲載するものは形容動詞の「ナ＋ヒト・モノ」形式をとることができず、連体の「ノ」との使用が可能な漢語である。

以下でそれぞれの図表に示した漢語は、朝日新聞における例文において、名詞としてヒトやモノを修飾する形容詞的な性格を持つことが示されたものである。

表①Aグループ[3]

漢語＋サ変動詞	テイル形	タ形
結婚する	29	31
離婚する	1	33
後悔する	12	3
固定する	2	10
故障する	1	4
乾燥する	2	32
納得する	4	11
曲折する[4]	×	16
類似する	1	9
努力する	38	53

[3]表①の調査範囲はジンブツの特徴を表示する漢語形容詞である場合には「～テイル人・～タ人」、モノの特徴を表示する漢語形容詞である場合には「～テイルもの・～タもの」を記入して行った検査であり、概ね文頭若しくは文中に単独のまま使用されるものを基準として取り出した場合の用例数を示している。×は使用が不可能なものを表す。

[4]「曲折する」の検索ではモノを示す名詞との使用は見られなかったが、次の例文に示すように対象名詞との使用が見られた。双方の葬送儀礼、身体観、生死観の差異を探りながら、曲折した心情の風土を浮き彫りにする傑作。（2004年09月12日・朝日新聞）

失業する	13	65
我慢する	24	5
自慢する	2	1
苦労する	44	48
妊娠する	31	21
乱暴する	1	2

以上挙げた漢語に基づく用例の考察では、「自慢」において他の漢語形容詞とは使用状況が異なっており、「テイル」形や「タ」形との使用頻度が低いと思われる。それに対して、「自慢＋スル＋ヒト」形式の用例は「テイル・タ」形を伴う形式の用例より圧倒的に多く、形容詞性を持つ語句として最も普及している。合計で19例が出現し、以下に具体的な用例を表示する。

(8) 彼氏の愚痴をこぼす学生や、他店で買ってきた服を並べて自慢する人も。
(2004年02月17日・朝日新聞)

表②Bグループ

漢語＋サ変動詞	テイル形	タ形
混乱する	2	7
結合する	×	4
失望する	1	12
成功する	20	53
失敗する	3	47
決心する	3	7
困惑する	8	1
嫉妬する	1	×
悲嘆する	1	2
感動する	2	11
興奮する	2	8
困窮する	28	14
婚約する[5]	4	5
死亡する	16	83

以上に示した表②Bグループでは連体の「ナ」や「ノ」との使用が不可能な漢語形容詞を表す。また、修飾の対象名詞がヒトやモノであり、「テイル」形や「タ」形がより形容詞的な用法に相応しい漢語を示した図表である。

[5]朝日新聞オンライン記事データベース検索では連体修飾要素を作る「テイル・タ・ナ・ノ」よりも用例数が最も優れた語として「婚約者」があった。全体で2053件が検出されており、修飾される対象がヒトである場合は「漢語＋者」形式の使用傾向も高いと思われる。

表②において「タ」形との形容詞的な用法が見られない「嫉妬する」を例に取り上げると、検査結果としては「テイル」形も非常に少なく、「ナ・ノ」とは完全に用いられない。

その一方で、「嫉妬する」のシク活用形容詞であり同じ意味を持つ「羨ましい」と入れ替えると「羨ましい」が解釈的に当てはまらない場合もある。

(9) この比較をすることで、{嫉妬している・?? 羨ましい} 人が持っているものを私は手にすることが出来ないという諦めや無価値観を感じる訳です。[6]

以上を考慮して「羨ましい」以外の形容詞的な用法を検索すると「嫉妬する＋ヒト」の形式はかなり多く、「テイル」形よりも「ル」形が選択される頻度が高いと思われる。基本的には「ル」形が動作の未来を表す形式として考えられるが、(10)においては連体修飾する時制と無関係であり、形容詞的な用法で現れる。

(10) 確かに、嫉妬する人間を非難してばかりでは、状況は変わらないだろう。

(2003年06月23日・朝日新聞)

ここで形態論や意味論の視点からみると「ル」形も「テイル・タ」形と同様に動詞を形容詞化する際に、形容詞の振る舞いをする場合があるということが分かる。形容詞性を有する漢語にもよるが、漢語＋「スル」形式も形容詞的な用法が見られる修飾語であると言えるだろう。

また、「嫉妬」という漢語に関しては、「嫉妬深い＋名詞」の固定した形も見られ、ヒトの性質を表す場合によく用いられる。

(11) 嫉妬深い男だったら、彼女が猫を片手に、部屋の中をあちこちとびまわりながら、もう一方の手で、(下略)　(カポーティ『ティファニーで朝食を』新潮文庫)

「困窮している＋名詞」ではニ格やデ格と共に使用される例が圧倒的に多く、全体で90例が検出された。形容詞的な用法も存在しており「テイル」形と「タ」形の比較ではテイル形の方が単独用法として最も多かった。また、表④にも表示されるように形容動詞という品詞に入っていないため、「ナ・ノ＋名詞」形式が存在しない。

(12) かつて中間層にあって、今は生活に困窮している人たちも増加しています。

(2011年09月14日・朝日新聞)

(13) 吹くのは1日限りだが、余ったお金は事故で困窮している人たちに寄付するという。

(2010年07月07日・朝日新聞)

---

[6] http://www.counselingservice.jp/lecture/lec513.html ウェブページからの例文である。用例出典として新聞オンライン記事データベースやCD-ROM版新潮文庫の100冊の用例を検査対象としたが、「嫉妬している・嫉妬した＋名詞」の形式は殆ど現れなかった。(9)の例文はネット検索を利用して見つけたものである。

(14) 困窮している人は、すでに親族とのあつれきを抱えている場合が多い。
(2012年06月03日・朝日新聞)

(15) 困窮した人々に食物を与えるだけでは十分でない。我々が膨大な数の人々に、いつまでも食料を与え続けられるわけがない。 (1993年04月18日・朝日新聞)

表③Cグループ

漢語＋サ変動詞	テイル形	タ形
満足する	25	5
独立する	3	25
安定する	5	32
心配する	30	10
安心する	7	5
共通する	21	23
自立する	14	43

Cグループの漢語形容詞は連体修飾の場合に4つの条件が当てはまる要素である。以下では全ての形式が見られた「心配」を取り扱う。

(16) 自分の体や子孫にどんな影響が出るか心配している人たちにとって、被爆地の情報はとても意義がある。 (2004年11月19日・朝日新聞)

(17) 心配した母に海外留学を勧められた。 (2013年02月10日・朝日新聞)

(18) 症候群にかかっているかどうか、心配な女性読者の方は、まず、診断テストをやっていただきたい。 (1986年03月15日・朝日新聞)

(19) 神戸市などから戻って7日以内で38度以上の発熱やのどの痛みなどの症状があって心配の人は、同センターに電話するよう呼びかけている。 (2009年05月17日・朝日新聞)

「心配」と関係がある用例について数を比較すると、連体修飾の役割を果たす場合の「心配している」が135件、「心配した」が43件現れた。一般に、タ形の方が多く見られるにもかかわらず漢語の意味や解釈的な特徴によって形容詞的な要素として使用頻度が変わってくることが分かる。「心配な」「心配の」＋名詞形式は非常に少なく、それに伴って形容詞として選択される頻度も低下しているのではないだろうか。

本稿では対象外にしたが、連体修飾の際には漢語と共に「スル」形もよく用いられる形態であった。形容詞性を最も有し動詞に付くことで形容詞化を促す機能が著しい「タ」形と、「スル」形の比較を検討する必要があると思われる。

一方、サ変動詞が付加された形で述語としてもよく用いられる「不足」のような異なった用

法を持つ漢語の場合は、単独のまま「テイル・タ・ナ」との使用が可能だが、「不足＋ノ＋ヒト・モノ」形式としての用例は見られない。朝日新聞データベースの検索では「不足」の直前に「運動・睡眠・栄養・取材」などのような補助となる単語が付いており、名詞修飾の場合には他の語の必要性がはっきりと現れる。

(20) この場合、同時に読み上げられる記事も新味がないか取材不足のものと相場は決まっている。 (2000年05月12日・朝日新聞)

(21) 貧困から野菜の摂取量が減り、栄養不足の人もいる。 (2013年01月16日・朝日新聞)

また、名詞を修飾する際「テイル・タ」形との使用は不可能であるが、「ナ」と「ノ」との使用は見られる形容詞的な漢語に関しては次のように論じることができる。例えば、連体修飾の機能を果たす形で「同様な・同様の＋名詞」の用法がある。ただし、「同様している・同様した＋名詞」の形式、述語文である「～は・が同様している・同様した」形式で用いることは不可能である。以下に例を示す。

(22) 同様｛の/な｝やり方 (加藤2003p.98)
(23)｛??同様している・??同様した｝やり方

以上のような「同様」と同じ特徴を有する漢語がいくつか[7]あり、それらの成立・特徴を分析すると、次の2点が挙げられる。

①名詞と形容動詞の形が存在し、サ変動詞形式が存在しない形容詞的な漢語。
②漢語自体が動詞を含まず、そのため「テイル・タ」を付加することが出来ない。

それに対して、形容動詞の形があるにもかかわらず連体修飾の「ノ」での使用がなく、漢語の構成において一字が動詞であるにもかかわらず形容詞的な「テイル」や「タ」形と共に使用することが不可能なものもある。例えば、ヒトの状態・属性を表す場合に用いられる「敏感な」「優秀な」などのような形容動詞は「敏感している・敏感した・敏感の＋名詞」「優秀している・優秀した・優秀の＋名詞」の形では現れない。

(24) ―「おっかさん、どうしたの。」
敏感な｛??敏感している/??敏感した/??敏感の｝少年に、母おやの顔いろが読めないはずはなかった。 (山本有三『路傍の石』新潮文庫)

(25) 若く活動的で、優秀な｛??優秀している/??優秀した/??優秀の｝人物が集るのだった。 (星新一『人民は弱し官吏は強し』新潮文庫)

---

[7] (22)の「同様」と似た特徴を持つ漢語として「孤独・安全・小柄・過重」などが挙げられる。

ここまでの内容では、連体修飾には漢語形容詞の仕組みを持つものが様々な特徴を持って現れ、漢語による成立条件を有するものが多くあるということが分かった。それぞれの表における漢語サ変動詞の性質を分析し、形容詞的な用法の有無に基づくテストを実施するうえで、形容詞らしさという観点からより詳しく考察する価値があると思われる。

3. 形容動詞の「漢語＋ナ」と連体の「漢語＋ノ」形態・形容詞的な用法

名詞を修飾する際の「ナ」と「ノ」の使い分けは蓄積の多い課題であり、「ナ」と「ノ」の選択を考察対象とする先行研究が多い。ここで形容動詞の「ナ」や連体修飾要素となる「ノ」の前部に置かれる漢語とその漢語との形容詞的な関係や様々な性質に注目し、形容詞的な意味を持つ単語を考察してみたい。

以下の表④にみられるように名詞を形容する際に「ナ」と「ノ」が両方とも用いられるパターンは少なく、特に漢語の場合は修飾要素「ノ」への使用傾向が高いと思われる。

この「ナ」と「ノ」に関して、加藤(2003)では形容動詞という品詞を独立して立てることをせずに名詞に組み入れた理由として連体修飾形態として二つ以上の形態を有する場合について次のように主張している。

> なお、それぞれの語や形態素がこれらのうちのいずれか一つの連体修飾形態しかもたないというわけではない。いずれか一つの場合もあるが、複数の形態を重複して有する場合もある。そして、その複数の形態を有する場合でも、それらの間にほとんど意味の差がない場合もあれば、意味用法が異なる場合もある。たとえば、「共通の課題」「共通な課題」「共通した課題」は、かなり意味が近いが、「ちょっとしたプレゼント」「ちょっとのプレゼント」では意味が明らかに異なっている。
>
> (p.20)

表④における漢語に基づく連体修飾において名詞を形容する機能で用いられる形容動詞「ナ」形と連体の「ノ」形を比較すると、「ノ＋名詞」の単独形式が圧倒的に多いことが明らかである。表④はもともと名詞を由来としているが、形容動詞として現れるものも基準とし、行った比較である。

表④で対象とした漢語においては、「ナ」との使用は可能だが「ノ」との使用は不可能なものは「不足・感心」[8]のみであった。このことは、修飾語である漢語の語彙論的な特徴や文中における解釈的な特徴に依処しており、漢語そのものが品詞として持っている属性にも関わる現象だと考えられる。品詞性という観点からみると、形容動詞の漢語はほとんど名詞としても用いられるものであり、サ変動詞を伴う可能性もあるものである。

スワン彰子(1994)では、以上の点について様々な辞典に基づいて形容動詞「ナ」/「ノ」の扱いと連体修飾用法に関して分析している。外来語、和語・漢語分析では「ナ」と「ノ」の使

---

[8] 明鏡国語辞典では「不足」も他の漢語と同様に「名詞・形容動詞・自サ変」として様々な品詞に分けられているが、意味の面では少し異なる使い方するため、「名詞＋不足＋名詞」の形式が派生したのではないかと思われる。「感心」は一般的に「感心があるもの」「感心のあるもの」のような固定した形式で用いられるが、直接に名詞の前に置かれる用法はない。

い分けがはっきりとされ、和・漢語の場合には、名詞の中に形容動詞の機能が認められ、形容動詞として「ノ」「ナ」の扱いの違うものが605語のうちで432あると主張されている。

(26) 孤独な人・孤独の人 (スワン1994p.245)
(27) 孤独な生活・? 孤独の生活 (形容詞的な意味で)
(28) 孤独生活

修飾される名詞がヒトである場合、(26)では一般的に「ナ」と「ノ」の両者が連体修飾用法として有効である。但し、名詞となるものがヒト以外の現象である際には「ナ」と「ノ」の選択が異なる場合もある。(27)では形容動詞の「ナ」が形容詞的な用法を果たす機能に当てはまるが、「ノ」の場合は所有、所属を表わす「格助詞」の解釈もあり得るため、選択頻度が低いと考えられる。以上から分かるように、「ナ」と「ノ」の使い分けには解釈的な特徴が関わっており、文中に用いられる単語による事情があるということではないだろうか。

一方、(28)における用例のような使用も不可能ではない。インターネットにおける文章を元にした検索では、この単独用法も多少現れた。

(29) 真の孤独生活というのは、到底人間にはできないことだ。
(萩原朔太郎『僕の孤独癖について』)

以上の現象は、語彙的な問題として考えなければならないことであるが、その一つ一つの現象は必ずしもその単語にのみ見られるものでもない。辞書では「名詞」と「形容動詞」として名付けられた漢語全てを含む事情であり、「ナ」と「ノ」を伴うことが一般にあり得るため、「サ変動詞」との使用が見られない語も一つのグループとしてまとめる必要があると思われる。

さらに、明鏡国語辞典(2003)では、たとえば「普通」という漢語が「名詞と形容動詞」の両方に位置付けられているが、「普通＋ノ＋名詞」形式が存在するのに対して「普通＋ナ＋名詞」形式は存在しない。しかし、合成語の用法に注目すると、(31)のような「普通＋名詞」形も多く用いられる基本的な文句や用語である。このカテゴリーに入る漢語に関しても研究する価値があると考えられる。

(30) 彼は普通の {??な} 俳優ではない。
(31) 普通列車

表④[9]

漢語形容詞	形容動詞「ナ」	「ノ」＋ヒト・モノ
結婚	×	3
離婚	×	4*

[9] 表④における*印が付いている数字は漢語形容詞と共に用いられる主体として「ヒト・モノ」ではなく、他の名詞を対象とした用例数である。例えば、「離婚の方・後悔の方・固定のファン・安定の仕組み・曲折の道・失業の方・不足な点・乱暴の犯意」などのようなものである。

満足	11	6
後悔	×	12*
独立	2	16
固定	×	13*
安定	4	7*
故障	×	×
乾燥	×	×
混乱	×	×
心配	67	2
安心	13	3
結合	×	×
納得	×	4
失望	×	×
成功	×	×
失敗	×	×
決心	×	×
曲折	×	13*
類似	×	32
努力	×	61
嫉妬	×	×
失業	×	4*
不足	10*	×
我慢	×	6
自慢	×	7
苦労	×	8
困窮	×	×
共通	6	5
自立	×	14
感心	3	×
婚約[10]	×	×
死亡	×	×
妊娠	×	2
乱暴	7	2*

[10]朝日新聞オンライン記事データベース検索では連体修飾要素である「テイル・タ・ナ・ノ」より最も用例数が優れた語は「婚約者」であった。全体で2053件が検出され、修飾される対象がヒトである場合は「漢語＋者」形式への使用傾向も多いと思われる。

4. おわりに

本稿では、現代日本語において動作を表す役割ではなく、名詞修飾の働きをする「漢語形容詞＋名詞」の形式で現れるものに注目し、このような形に付加する「テイル・タ」形の形容詞的な用法を考察した。また、このタイプの漢語の連体修飾となる要素と使用傾向を調査し、漢語の属性によってそれぞれの観点に即して図表に分類した。それによって漢語形容詞の場合も「タ」形との使用がより形容詞性を表すということが分かった。加えて、名詞を修飾する際の「ナ」と「ノ」の使用傾向についても述べ、形容詞的な特徴を有する漢語を図表にまとめた。「ナ」と「ノ」の場合は修飾語になる漢語にもよるが、「ノ」の方が名詞と用いられる頻度は高く、「ナ」に比べると形容詞性機能を持つ要素だと思われる。

また、「動詞＋テアル」形にも形容詞らしさが見られ、単独ではなくても用法としては形容詞に近い属性を有するものが存在していることも分かった。この点も考察の対象とし、今後の課題としたい。

(32) 壁に貼ってあるポスターはきれいだ。(連体修飾)

参考文献

豊田豊子 (1980)『漢字構成の「な形容詞」(形容動詞)』東京外国語大学外国語学部附属日本語学校no.7 p.85-99

寺村秀夫 (1984)『日本語のシンタクストと意味　第Ⅱ巻』くろしお出版

スワン彰子(1994)『形容動詞＋「な」/「の」について』早稲田大学日本語研究教育センター第 29 分冊 245-269

加藤重広(2003)『日本語修飾構造の語用論的研究』ひつじ書房

北原保雄編(2003)『明鏡国語辞典』大修館書

用例出典

朝日新聞オンライン記事データベース『聞蔵（きくぞう）Ⅱ・ビジュアル』

CD-ROM 版新潮文庫の 100 冊